

会報

全国公立学校退職教頭会

第74号

再会を期待する

全国公立学校退職教頭会

会長 山浦朝日

瀬を早み 岩にせかるる 滝川の
われても末に 逢わんとぞ思ふ

百人一首にある恋の歌です。なぜかこの頃この一首がちらちらと頭に浮かびます。「岩」を「コロナ」に勝手に置き換えている私です。

東京都では、三月上旬に、コロナに感染したところのある人と感染している人が、合わせて、優に百万人を越えました。高齢者である私たちにとつては、簡単に見過ごすことが出来ない厳しい状況に置かれているといえるでしょう。

各都県支部会長に宛てた年賀状では、この状況を見越して、私たち全国公立学校退職教頭会は、『全退教の願い』を道しるべとして、その思いを発信する活動をしていきたいと、集まっています。この二年来、コロナ禍によって代議員会が開けていないことは、誠に残念な限りです。オミクロン

株の感染発生により、この状況は、さらに続く懸念があります。

都府県境を越えて集まることを控えるならば、それぞれの支部における諸活動の活発化が最重要課題となります。この視点を踏まえて、持続的な活動を進めて下さるよう、よろしくお願いいたします。

また、それぞれの支部の活発化を支えることが出来ればと、十分とは言えないでしょうが、『支部活動援助金』を各支部一律分と各支部規模別分を合わせて、運営資金より支出しました。この支出は、会則の細則第5条「本資金は、本会の組織維持・拡大や教育の振興に役立てるものである」が根拠となっています。

全退教は、コロナ禍の他に、大きな問題を抱えています。会員数の伸び悩み、というよりは、自然減を含めた会員減と役員を含めたすべての会員の高齢化です。五年経って見れば、平均年齢が五歳上がっただけの組織では、先が見えなくなります。高齢化は、本部・支部における役員においても重い懸案であると言えるでしょう。東京大会の事前準備として「(出欠席の)意向伺い」をお願いした結果は、本部役員を除いた場合、各都県支部会長からの返信は、高齢(ご本人の自覚)とコロナ(家族の反対を含む)を理由とした欠席が約五割に達してしまいました。

組織的には難しいものを抱えている全退教ですが、私たちが教育問題に関して発信し訴えるべき課題は、山積していると言えます。

『教員不足の問題』・・・文部科学省の実態調査によれば、小中高特別支援学校で二五八人の教員が未配置となっています。(二〇二二・四月)

『教員免許更新制度』・・・退職教員などの免許失効により代替教員の確保が困難を極めました。結果、この制度は廃止せざるをえなくなっています。廃止と引き換えに、研修受講履歴の記録と管理が教育委員会に義務づけられるようです。

『働き方改革』・・・推進法では、一か月の在校時間から正規勤務時間を除いた時間が「四五時間」を超えないようにすると定められています。現実には、「四五時間を下回る」教員は、月一〜二名程度です。《副校長アシスタントをしている会員からの情報》

このような実態の中で、教員採用倍率が最低となり、学生が教職を避ける傾向をもたらしています。

退職したとはいえ生涯教育に関わりたいと思いつづけている全退教の一人ひとりには、『国家百年の大計は、教育にあり』を死語にしないため、今いるその場所で、自分に出ることを自分なりのやり方で発信していきましょう。

今年こそは、支部の活動・個人の働きを交流し合える機会が持てることを期待しています。

各県の会報誌に掲載された各支部
会長の巻頭言を特集いたしました

秋田県

秋田県公立小・中学校退
職教頭会 会報 「松柏」
第三一号より

「今の私」

会長 工藤 英胤

私は一九四〇年三月生まれ、二〇二二年の今年
は六〇に二二を加えると八二才と、数え易い。：
八〇代になったらとたんに腰痛になってしま
した。

医者と仲良くなって治療に励んでいます。：
まだ早いんじゃないかと思っっているのですが私の
妻は、まだ七〇代というのにヒマがあれば眠気
におそわれがちとなっているので、眠気さましの
「何か」を模索中です。

週一度下浜中へ行っています。下浜中は、かつ
て生徒数の一番多い時は二五〇人でしたが、今で
は二〇人、非常勤の私のような職員も入れると職

員数と同じです。どの教室に行っても六・七人の
生徒数ですが、幼小中のこれまで殆ど同じメン
バーですから、家族の中に割って入って行くみた
いな感じですが。

職員といえれば下浜中全職員を最年長の私から年
齢多い順に並べると、どうも二〇名中下から五、
六名のところが校長の位置にあるようで、校長職
に就いたのはこの下浜中からということですが。そ
して彼はこれまで二度も少年たちを野球で全県優
勝させているということですが。ですから私たちは、
気がつけばすべて上手く行くのは当然と期待して
の毎日を過ごしています。

さて、この二、三年は二つの異質な大波に遭遇
していると云えますね。一つはもちろんコロナ騒
動、もう一つはスマホ中心のSNSとかLINEな
るものが生活の一部価値観さえ変えさせられてき
ているのでは？・・・と。

十一月三十日秋篠宮様が五十六才誕生会見「私
の判断」で眞子様結婚式見送りの件について述べ
られていましたが、私はその気持ちに触れて日本
の最近の時勢をよく鑑みての発言内容だと感しま
した。
と同時に淋しくも感じました。正に「真意語れず、
にじむ苦悩」、宮様の表情、立場から、感じられ
ました。



フキノトウ

福島県

福島県公立小中学校退職
教頭会

会報 第四一号より

あいさつ

会長 富田 和志

第三二回夏季オリンピック東京大会は八月八日、東京都新宿区の国立競技場で閉会式を行い、一七日間の日程に幕を閉じました。新型コロナウイルスの影響で史上初めて一年延期となった大会は緊急事態宣言下での開催を強いられ、大半の会場は無観客で批判と混乱の中、世界中から集まった選手は困難な状況下で力を尽くした。日本は史上最多のメダルを獲得したことは賞賛に値する。

私がこの目で実際に見られるオリンピックはもうないなと思いついて先立って行なわれる福島市のあづま球場でのソフトボール「日本対オーストラリア」戦を観戦しようと手続きをし、入場券を抽選で当てた。当日を楽しみにしていた。ところが無観客となり淡い夢と消え去った。

さて今年度の活動ですが丹治和美前会長の路線を引き継いで行こうと思っています。本年度の努力目標である

- ①組織の強化に努めること
- ②叙勲の陳情、実現に努めること

③社会活動に奉仕・寄与すること

④情報交換を密にすること

を強化推進していきたいと思えます。

特に①に重点を置き会員の増強に力を入れていきたいと思えます。その会員の増減ですが令和元年八月現在で会員数一〇二人でしたが二年後の令和三年の八月現在では一七人減の八五人でした。減少した内訳を見ると退会者が亡くなられた方の数の倍以上でした。退会者の主な理由としては高齢で活動に参加できない、病床に伏しているため、本会活動に魅力がない等が挙げられます。

また、新入会員を年度別に見ますと、平成三一年三月に退職した教頭は県全体で小中学校合わせて四六名、そのうち入会した人は八名。令和二年三月に退職した教頭は二七名で入会者は一名。令和三年は退職教頭二四名で、入会者は三名でした。

入会しない理由としては再任用のためが圧倒的に多い。だが再任用していても入会する人もいます。遠方に両親が住んでいるので会いに行くため、自分の趣味に生きたい、人との関わりが煩わしい等が挙げられる。いずれにせよ新入会員を確保することが緊急の課題だと思えます。

令和二年一月から新型コロナウイルス感染者が確認され全国的に感染拡大し県内でも連日感染者数が発表されていますが近頃は減少傾向にある事は喜ばしいことです。コロナウイルスのお陰で総会が二度中止となりましたが、来年の会津若松大

会は今のところ実施する予定で進めています。三回目のワクチン接種が順調に行く事を望みたいで

最後にありますが諸先輩方が築いてきた本会活動を堅持し時代の変化に柔軟に対応し会員の皆様から信頼されるよう活動して参りたいと思えます。それには皆様方の協力が是非とも必要ですのでよろしく願います。



ネモトジャクナゲ

東京都小

東京都公立小学校退職
教頭・副校長会
会報第八三号より

「コロナ禍の中の退職会の

活動を考える」(二)

会長 高松 泉

前号発行から一年以上経ってしまいました。前号と同じタイトルを使わせていただきましたが、残念ながらコロナ禍は、世界全体を見るとまだ完全に終息したと言えない状況のようです。またこの一年間、新規感染者が増えたため、役員会の開催も、私の判断で休止しておりました。しかし本年九月終わり頃から新規感染者が減り始めたため、活動を少しずつ再開することと致しました。

しかし今後も、新型コロナウイルスのような治療薬のない感染症の再発を考えると、退職会の活動は、会の存続までもが危ぶまれる状況と見えます。私たちのような高齢者の集まりである他の退職者の会の動向も見ながら、今後のことを考えていきたいと思っております。

現在までしばらく活動を休止してはおりませんが、「東京都公立中学校退職教頭・副校長会」と「東京都立学校退職教頭・副校長会」との「連台活動」

は漸次進めて参りました。また年末までに都教委への要請活動も行われる予定です。

このような様々な活動のお知らせを、逐一会員の皆様にお届けするため、東京都公立小学校退職教頭・副校長会としてのホームページを設置する予定です。そうすることにより、葉書や手紙でお知らせすることなく、イベントや活動状況をすぐにお知らせすることが出来るようになると思います。もししばらくお待ち下さい。

〔終身会員制度の導入（次年度の総会にはかり決定したい）〕

コロナ禍とは直接関係ありませんが、本会において「終身会員制度」を取り入れたいと思います。理由は、多くの方は六十歳で定年退職し本会に入られます。私は間もなく退職後十年経ちますが、今のように外へ出て活動できる期間は限られている、と感じております。またかつては活発に本会活動に出っていた先輩方も、様々な理由で外出が難しくなっている状況が散見されます。また会費納入の負担もいつまでも大丈夫、と言えない状況も考えられます。そこで入会后二十周年会員であった方のうち、希望される方は「終身会員」としたいと思います。「終身会員」は会費の納入義務を負いません。会への参加はホームページを通し、イベント等に参加できます。会からは年一回文書（葉書等）で連絡を差し上げます。また今

までと同じ、普通に会員として活動されたい方は会費を納入していただき、総会をはじめすべてのイベントに参加することが出来るようになります。入会后二十年経った時に各自にご判断いただきたいと思っております。

この制度は次の総会で認められた後、正式に実施したいと思います。

今回、全会員へアンケートをお願いしたいと思います。どうぞ率直なご意見をお聞かせいただけたら、と思います。



ソメイヨシノ

東京都中

東京都立中学校退職

教頭・副校長会

会報三八号より

令和三年度のスタートにあたり

会長 相原 一矢

やっとワクチン接種が始まり、各年齢層に加速しつつある現在（六月）会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。私ごとですが、六月十八日に二回目の接種を無事終えることができました。

コロナ感染症が報じられた当初、医療・科学が発達した現在の日本において、このような二年越しの騒動になると思いましたか。楽観主義者の私は、浅はかにも「すぐに収まります」何て呑気に構えていました。

それが昨年に引き続き、今年も、三月下旬の観桜会の中止に始まり、五月の総会も中止せざるを得なくなりました。

また、毎年お手伝いしている、全国公立学校退職教頭会も中止となりました。このような状況の中、会員の皆様は無事接種を終えることができませんでしたでしょうか。今年度こそ、会員の皆様と集える日が来ればと願っております。

中学校現場では、臨時休業にはならないものの、コロナ対策で生徒の健康観察、安全な環境作り、消毒等学校全体で感染症予防対策を厳に行っています。

そのような中、いよいよ平成二九年に告示された中学校新学習指導要領が、三年間の移行期間を終え、今年度四月一日より完全実施となりました。

資料を読み解いてみますと、例えば観点別学習状況の評価の観点については、従来四つの観点が設定されていたところ、「社会に開かれた教育課程」を実現する観点から、各教科で育成を目指す資質・能力をできるだけわかりやすく示し、明確化することは、教師の指導のみならず、生徒たち自身の学びにも資するものと考え、新学習指導要領においては、育成を目指す資質・能力を新たに以下の三つの柱に整理しています。

「知識及び技能の習得」

「思考力、判断力表現力の育成」

「学びに向かう力、人間性の涵養」

学習指導要領の各教科等の記載が資質・能力の三つの柱に基づき整理されたことにより、教師が生徒の学習の成果を的確に捉え、指導の改善を図る「指導と評価の一体化」が実現されやすくなることが期待されるからです。

他に重要なキーワードとして、「令和の日本型学校教育」「個別最適な学び」「協働的な学びの実現」等が出てきます。是非各自でご研鑽ください。

コロナ対策に伴い、社会の変化が加速度的に増し、早急な対応が迫られています。現場では一人一台のタブレット端末の配布・活用等が始まりました。

これからの学校教育には、一人一人の生徒が、自分の良さや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の創り手となるよう生徒を育成することが求められています。

働き方改革で、先生方には「ゆとり」と言いながら、私には「多忙」の二文字しか見えません。このような変化の中、都中退教も各方面にアンテナを張り、情報を集め、何かお役に立てることはないか常に模索していくことが必要であると考えています。

さて、今年度は新入会員として四二名の方が加入しましたが、お亡くなりになった方や、住所未確認の方もあり、現在会員総数は四〇四名です。

しかし、毎年繰り返しておりますが、会員数の割には都中退教の諸行事への参加者がこの数年今ひとつ伸びず、本部としてはどのようにしたらよいか悩んでいるのが実状です。何か良いお知恵やご意見がございましたら、本部の方にお寄せいただければ幸いです。

役員一同会員の皆様にとって、魅力ある会となるよう知恵を絞って会の運営に当たっていきたいと思います。それには会員皆様のご協力がどうしても必要です。是非各行事にふるってご参加ください。よろしくお願いいたします。

静岡県

静岡県公立小中学校退職教頭会 会報
「静朋」 第六五号より

会員数の増加を図ろう

会長 深澤 孝俊

新型コロナウイルスワクチンの接種券がようやく届き、その日に島田市民病院へ行き、その日に島田市民病院へ行き、第一回目と第二回目の接種日を決めてきました。現在は二回目を接種し、少しの活動ができるようになりました。また、熱海伊豆山土石流に関して、会員の被害はなかったようで安心しました。

このようなコロナ禍の中で、令和三年度の理事會・総会が規模を縮小して行われ、活動方針も了承されました。決算報告、役員選考報告、予算案等承認され、令和三年度がスタートしました。

活動方針の中で求められている『生きがい活動の積極的な推進』の中に、「安定した運営と組織活性化を図るために、互いの協力体制のもと課題解決に向けて努力を惜しまない」とあります。全退教でも、各県組織活性化のために若い人を会員に求めています。本県においても、会員数の減少が続いており、会員数の増加が責務です。

今年度の会員数は、一九五人となり、新規入会

者は六名となりました。二百人を割ってしまい、その中で静岡、浜松地区は特に頑張ってもらいたいです。

五年前まで組織率は全国一位で、それなりに全退教に貢献してまいりました。会員数を増やすためには、現職教頭会とのつながりをもち、深め、親睦を図り、退職教頭会の意義を浸透させ、会員数の増加に努力してほしいです。

また、コロナ禍の後で、ボランティア活動の推進を図り、教頭職としての持ち味を生かした活動を進めていきたいです。

できることから始めよう

現職の教頭会会長と打ち合わせを持ち、退職教頭会との役員同士の会合を八月に行う予定になっています。二月には、現職教頭会いの理事会に参加する予定です。

県教育委員会へは、十二月に教育総務課で、叙位叙勲についての要請と現在の課題について話し合いの場を持つ予定です。全国大会は、コロナ禍の中、秋の予定で場所も決まっております。また、東海北陸大会についても、決まっております。現在、コロナ禍の中で、少しでも進めることがあれば、進めていきたいです。

要請活動について

令和二年九月二八日、会長と副会長二名で静岡

県教育委員会を訪問、山内慎一郎教育主査に「死亡叙位叙勲」受賞へ向けての要請を行った。今回は、コロナ禍のため、静岡県教育委員会委員長あてに退職教頭「死亡者叙位叙勲」受賞に向けてのお願いの要請文を渡すことが中心となった。

長屋会長から全国公立学校退職教頭会の三つの願いと静岡県退職教頭会における社会貢献の実態調査を行った。社会貢献実態調査報告は、現職の教頭会会長に渡され、地区の会長さんに配布された。

山内教育主査からは、「教育への貢献度は学校の要として、貢献度は校長と変わらないが、審査基準が厳しくなり、ハードルが高いが、そのためには、願いを言い続けていくしかない。」と、話を伺うことができた。

今後、社会貢献を通して学校への応援隊として、ボランティア活動を推し進めていきたい。
(文責 会長 深澤孝俊)



ツツジ

三重県

三重県公立小中学校退職教頭会

会報「礎」より

部活動の再開を願う

会長 岡 英昭

コロナ禍が二年間におよび退職教頭会を含めさまざまな団体や企業、組織等の活動や催しが中止となりました。本会が主目的とする親睦、交流、情報交換もできず、三専門部の活動も広報誌の発行のみにとどまりました。

総会も開催できず、全会員による書面決議と前代未聞の措置を取らせていただきました。全国退職教頭会の代議員会は九月まで延期でしたが、結局やむなく中止が決定されました。東海北陸地区退職教頭会については富山県より会員の高齢化、新規会員の入会減少により全国退職教頭会本部へ休会届けを提出し、東海北陸理事会は脱退しますという文書が届きました。他県には状況を伝えたところ、富山県が抜ければ東海北陸地区退職教頭会の実をなさないので解散すべきという意見や岐阜、静岡、三重の三県で東海退職教頭会として存続すべきという意見があり、全国本部に連絡を入れたがコロナ禍でもあり、全国の各県も活動でき

ず、休眠状態であるのでこの問題は棚上げとなっています。

早期にコロナウイルス感染症が収束し本会活動が再開されることを望みますが、見えてきたさまざまな課題の対応、解決も急がれます。

みなさんの加入しているサークル、クラブ等の活動はどうですか。私は古希野球に加入して活動をしています。全国古希野球は七十才以上の加入ですが、三重県古希野球連盟では六八才からの加入を認めています。したがってまだ若造の私の専門は内野手ですが、守らせてもらえず対戦相手のするどい外野への右、左の打球を飛び回って捕球する外野手です。連盟のリーグ戦が年間シーズン二十試合以上、他県との大会や練習試合を行なっています。今年はコロナでできませんでしたが、いなべ市教育委員会の後援をもらって「世代間交流野球大会」を地元の中学校野球部、三重県内中学女子で組織する三重アイリス、岐阜の古希野球チームと世代間交流野球を行ないました。

今年より私が三重県古希野球連盟の事務局を預かることとなったが、コロナによりリーグ戦の組み合わせ、球場の確保、中止措置の連絡、再開の判断など感染リスクの高い高齢者チームであるので苦慮しています。古希野球や退職教頭会の活動などが早く再開できることを期待するものです。



ハナショウブ

広島県

広島県公立小中学校退職教頭会
会報 第二七号より

全国退職教頭会の現状

会長 上野 雅昭

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言下、今年度の全国代議員会を開催すべきか否かが検討される中、参加希望などを含めたアンケートが各県代議員に出されました。

①全国支部長の年齢構成は、前期未満者一名・前期高齢者四名・後期高齢者十一名(内四名は八五歳以上)

②全国代議員会出席希望者は八名で、半数の代議員の声しか聴けない状況下での代議員会は、審議を充分に尽くしたとは言えない、形ばかりのものとなるため、全国代議員会は、中止となりました。

③全国代議員会よりアンケート調査が六月中旬にあり、全国的な課題について各県支部の意見を求められました。早速、県内役員に意見を求める書面を出し、集計して本部に提出しました。

県内役員の見を集約した一部をお知らせします。(紙面の都合上、一部割愛しております。)

課題①「高齢化の問題について」

課題②「会員減少と若手入会者がいない事について」

・年々歳を重ねていくので、避けては通れない問題である。

・会員減少の問題については、種々あると思われるが、まとめると次のようになる。

○高齢化により自分自身の健康問題や配偶者・親族の介護・死亡等の問題と絡み合い、自然退会が増加。

○昨今、年金受給開始年齢の延期や在職中の蓄積された疲労感や束縛感から解放されたい。

「教育」には関わりたくない、逃避したいという感情的な問題、のんびりと趣味に生きたい等、個々人の「組織に対する価値観や考え方の違い」から束縛を嫌う傾向がある様に見られる。更に昨今の激務の為に退職前に体調を崩した早期退職者も多く、健康上の理由で入会を固辞する新規退職者も増加。

○女性会員の中には、実親や義父母の介護・配偶者の健康問題等家庭的な問題を抱えて、役員までは出来ない、という会員も、又、男性も然り。従って、同じ人が数年に渡って役員を引き受けざるを得ない状態ではなからうか。役員の高齢化の一因にもなっているのではなからうか。

○この様な中で、退職教頭会活動へのニーズを把握し、活動に反映させる事で「魅力ある活

動の模索」「負担にならない活動」を考え、

退職教頭会の目的を明確にし、入会への説得力が増す具体案を示す必要がある様に思われる。

○新規退職者には、その年だけではなく、数年継続して事あるごとに地域の集いに誘いながら繋がりを持つ取り組みが必要だと思われる。

○折角先輩たちが築きあげ、継続してきた会を、少数であっても何とか頑張つて続けていきたい。

課題③「コロナ禍における代議員会出欠状況について」

・出席希望者が半数を超える場合は、欠席者に予め書面で議題についての意見を回答していただき、代議員会で集約する等の方策を取るのも一方法である。

・リモート会議、ネットによる意見交換等、現状で取り得る様々な方法を駆使して「繋がりを」持ち続ける。

課題④「全国退職教頭会の組織改編の課題について」

・会議、役員会、現状に合う様にスリム化していく。

・現在、全国十六支部で、会長・副会長・事務局長・会計・庶務の合計で、本部役員十名は多すぎる感がある。又、地区一県で理事一名

が出ているが、九州地区、中四国近畿、関東
甲信越東北で理事各一名にし、本部役員も六
名（会長・副会長・事務局長・庶務・会計二
名）に減員する。

以上、集約した意見を提出しました。

尚、「その他」の欄に、二つほど提案意見を出し
ました。

① 全国代議員会の開催について、二年間は東京

（関東）で三年目に地方で開催する。

② 二年間、全国代議員会が開催されませんでした。

広島県も単年度措置で、年会費の減額を行いま
した。全国もいくばくかの減額を検討してくだ
さい。

※二点目の減額に相当する措置として、本年度に
限り、「支部活動援助金」名目で、支部に、一律
三千円＋支部規模別援助金として、令和二年度納
入会費の二割を還付するという通知が来ました。

なかなか、全国の実情を会員の皆様にお伝えす
る機会がない中、多くの紙面を割きましたが、お
伝えする事ができ感謝しています。今後とも、広
島県退職教頭会発展の為、会員皆様のお力添えを
お願い致します。



モミジ

群馬県

群馬県公立学校

退職教頭会

会報 第五六号より

「新型コロナウイルス禍に

打ち勝とう」

会長 篠田 昭一

会員の皆さまこんにちは、寒暖差の激しい時期
です。毎日をいかがお過ごしでしょうか。昨年は、
新型コロナウイルス禍に悩まされ、苦難な日々が
続きました。私も、さまざまな制約を受けざるを
えませんでした。

旅行や会食は無理

老人クラブの活動は中断

太極拳クラブの活動は中止

諸用事の外出は気軽にできない・・・いつま

で続くのでしょうか。

◎ 夜が明けない朝は無い アマビエ

◎ 冬が過ぎれば春がくる

◎ みんなで取り組みコロナ撲滅

私は、健康で穏やかな生活が続くように努めてい
ます。

○ 朝のテレビ体操

○ 午前中の家庭菜園

○ 午後の読書 「たくみの里わらアート」

○ 随時の散歩や室内での運動
○ 入出が少ない時の買出し
○ 所用には電話や手紙で連絡し合う
◎ 感染予防対策の実践をしています。
皆さんは創意工夫されて、有意義な人生を歩ま
れていることでしょう。



レンゲツツジ

訃報のお知らせ

永年「副会長」としてご尽力いただきました
「川島 孝一」様が令和三年十月二十日に
ご逝去されました。川島様は、深い洞察力、
高い理想と現職時代の経験生かし、赤城少年
の家での学習指導・生活相談を始め多くの社
会貢献に率先垂範されました。また、夜の懇
親会では、歌を披露されたり、どの人とも気
さくに懇談されるなど慕われる人でした。
会員一同 ご冥福をお祈り申し上げます

岡山県

岡山県公立学校退職教頭会 会報 「福寿草」
第四九号より

新型コロナウイルスの

感染拡大が止まらない中で

会長 梅原 桂子

頬をなでる風も一段と心地よく感じられる季節となりましたが、それとは裏腹に多くの人が日常を奪われ、先の見えない不安な日々が今年も続いています。

私が会長として承認していただいたのが、令和元年六月の総会でした。それから六カ月程は平穏だったのですが、新型コロナウイルスの集団感染が、あつという間に世界中に広まり、各国の対応も後手に回ったためか、日本でもコロナ患者が増加し続けています。

岡山県も今年の四月初めはコロナ患者が二十人程度だったのが、五月に入り百人越えが続くという危機的な状況にあります。八十%が変異ウイルスであり、感染力が一・三〇一・七倍と言われています。

そのような中、今年度の第一回理事会・支部長会、総会をどうするか、本部役員会を開き話し合

いました。「会費を出していただいているのに、何も活動しないというのは申し訳ない」とか「退職教頭会に対する意識が薄れ、人と人との繋がりがなくなり、会員数の減少に繋がっていくのではないか」とか「今、これだけ感染者が増えている現在、会を開いて集団感染を防ぐ対策がとれるか」等いろいろな意見がありました。

話し合いの結果、昨年度に続き、今年度も第一回理事会・支部長会、総会は中止ということになりました。五月十六日には岡山県にも、「緊急事態宣言」が出され、不要不急の外出自粛が求められました。

私も会長として二期目に入りますが、会を開くか、止めるか等いろいろと考えることが多く、思い悩んだ一年半でした。

コロナワクチンの予防接種が始まり、変異株にはあまり有効でないと言われていたワクチンが、ファイザー社製のワクチンを接種した人の九割が、日本で見つかっている複数の変異ウイルスに対する抗体を持っていたとの研究結果が発表され、ワクチンの効果が期待できるという明るいニュースが発表されました。

ワクチンに期待し、早く新型コロナウイルスが収束することを願っています。



モモノハナ

岐阜県

岐阜県公立学校退職教頭
会 会報
淡墨楼 第一〇二号より

新しい生活の創造

会長 松橋 慎吾

ご挨拶

コロナ禍により、令和二年度の活動は、代議員会をはじめ、県としての活動は中止とし、年会費千五百円の徴収もしないことにしました。残念ながらコロナ禍の収束は、「非常事態宣言」「まん延防止」、また、「第五波警戒」という声が出る程で、この三年度の活動も平常通りとは行かないようです。過日二月十四日発の全国公立学校退職教頭会の文書にありますように、五月開催は、九月以降にということ、このような動きを熟慮して、本県の活動を以下のようにと考えました。

国難、非常時という苦境の昨今の生活ですが、自然の災害（地震、台風、大雪など）と比較するレベルのものではありませんが、このコロナ禍の生活は、美しい心を共有した国民一人一人の力と、医療従事者などの献身的な努力で、世界の動向と比べると心温まる感もします。ようやく、ワクチン接種のスタートとか、東京オリンピック、パラリンピックの開催と明るいニュースもあります。また、約一年苦勞してきたコロナ禍生活での工

夫、忍耐等から得た新しい生活の財産があららちらに散見されます。きっと、会員の皆様も、閉ざされた生活、マスク生活の中で、新しい生活、発見、工夫があたりだったかと思えます。

そこで、このような「新生活スタート」として県代議員会は開催する予定としました。残念ながら従来「参加型会議」方式でなく、新方式の「書面決議型会議」を行い、こういう事態に敗けないよう「動」を求め、閉鎖から「三密」を配慮しつつ、「絆」「コミュニケーション」を深めたいと思えます。

時期は県退職教頭会の規約「五月の第二土曜日」より遅れましたが、代議員様に「議案書」を送付させて頂きました。

これと前後して、各会長様にお手数をおかけしましたが、「①代議会の話題 ・ 貴支部の自慢 ・ 是非協議してほしいこと ・ その他 ②県の新しい行事活動への要望 ③会員動静（物故者状況）」などご協力ありがとうございました。この貴重な意見を生かして、「議案書」を作成しました。

三年度の県の方針案の一部を紹介しますと、コロナが終息していないことを踏まえた活動は、文書、広報、郵便物、電話、ファックス、メール等による「情報交換」が中心かと思えます。リモートなるものは、組織としては考えておりません。とにかく、情報発信して「絆」を深め、「コミュニ

ケーション」を蘇生することです。そして、「コロナ禍」ゆえに、全国各支部、県下の各単位教頭会、会員の皆様の新しい生活への工夫、アイデアを紹介、交流すること等の活動を思っています。是非、ご参加のほどをお願いします。積極的に「原稿」を事務局にお送りください。ワード、エクセルに打ち込んだものでなくても、独自の原稿でも大歓迎です。

また、「会費」の件ですが、先程述べましたように、平常時のような積極的・行動的な活動は、厳しいので、会費を一人、千五百円を、本年度は、千円とさせて頂きたく思います。印刷、郵送費を中心にさせて頂きます。全国への分担金も、現在の岐阜県支部の会費収入は限界と報告します。

何卒、ご理解くださいまして、ご協力ご支援をお願い申し上げます。



レンゲソウ

山口県

山口県公立学校退職教頭
会（かなめ会）
会報 第七十号より

会長あいさつ

会長 松岡 睦彦

今年は、梅雨後半の七月に入って、梅雨前線が北上しながら活発になり、東海から関東南部地方にかけて、例年のない集中豪雨になり、悲惨な被害をもたらしました。亡くなられた方、被害を受けられた方に心からの哀悼の意を表します。もうしばらくの間、梅雨が続き蒸し暑い日々ですが、会員の皆様方におかれましては、熱中症に気を付けて、水分補給の日常生活をお過ごしください。

また、昨年のも二月以来、新型コロナウイルス及び変異コロナ感染が拡大して、十八ヶ月になりますが、収束の気配はない現状です。会員の皆様には、ワクチン接種の完了された方、予約中の方、これからの方等々ありますが、マスク使用、手洗い、アルコール消毒、密集を避ける生活を踏襲して、しばらくの間、コロナ感染に気をつけてお過ごしください。

さて、私のことで恐縮ですが、会長職をお引受けして、九年目となり、微力ながらできる限りの努力で会務を行っていきたいと存じますので、皆

様の変わらないご指導ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

昨今の国内の情勢では、東京オリンピック開催予定の状況で、ワクチン接種の進展の中、各都道府県では、ようやく自粛緩和がされて、商業活動が条件付きで再開されていますが、新型コロナウイルス拡散の終息見通しが立たない現状です。

特に、新型コロナウイルス感染者の治療にあたる医療機関の医師、看護師、職員の皆さんにご心痛とご苦労に対して、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

現在、世界経済活動が冷えている中で、中国をめぐる貿易摩擦、米国と中国との対立、一方、朝鮮半島では、南北の緩和から対立への恐れも出てきています。

また、世界の現在の軍事力は、核兵器保持国の米国、ロシア、中国、インドについて核兵器を保持していない日本の自衛隊が軍事力で、世界で第五位といわれています。軍事力による世界平和は、偽りの平和であり、脅しによる平和に過ぎません。

世界の各民族が等しく幼児から教育が受けられ、学問や科学を学び、情緒や思いやりの常識をわきまえた大人に成長しないといけません。

さて、昨年の第三二回山口県公立学校退職教頭会かなめ会親睦交流総会は、第六地区宇部山陽小野田・美祢市の担当で、十月十七日（土）、山陽小野田市「ナチュラルグリーンパークホテル」を会

場として開催される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の中、第六地区会員皆様で協議され、ご心痛しながらやむなく延期し、今年に繰り越し開催となりました。

年が明けた三月、中国地区公立学校退職教頭会理事会在、岡山市で開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの拡散防止のため、昨年度は中止となり、今年に繰り越しとなりました。中国地区では、鳥取県が退職教頭会の組織がなく、鳥根地区公立学校退職教頭会は、岡山、広島、山口の三県の持ち回りで、各県の組織や活動状況の報告、退職教頭への叙位叙勲の要請活動、各県の退職教頭会組織の維持及び会員の高齢化、入会者の減少についての意見交換をする会です。

全国公立学校退職教頭会代議員会は、五月に、東京で行われる予定でしたが、やはり新型コロナウイルスの拡散防止のため、今年度は書類協議及び審査となりました。なお、全国の役員としては、私が中国地区理事として、一昨年から全国副会長に第一地区の河田龍夫先生が選出されています。

よろしくご理解とご協力をお願いいたします。全国の退職教頭会の組織状況は、十五都県で、北から秋田、福島、群馬、東京小、東京中、静岡、岐阜、富山、三重、滋賀、岡山、広島、山口、徳島、佐賀、熊本、令和二年度の会員数（含む個人会員）は、千四百名弱です。

そのうち山口県は一九八名で、静岡、岡山とともに会員数が多く、他の都県はそれに続いていきます。ちなみに、令和元年度山口県会員数は二一五名で令和二年度は六月現在で一九九名です。令和三年度は七月現在で一八二名となり、全国会員も高齢化が進み減少傾向になっています。

一 昨年の秋田大会で、『全国公立学校退職教頭会の願い』が山浦朝日全国会長から提案されたのを受け、山口県から秋田大会で採択する旨を要請し、満場一致で採択されました。その願いとは、

- 第一の願い「私たち自身のこと」、
- 第二の願い「現職にある教職員のこと」、
- 第三の願い「子どもたちのこと」

の三つの願いです。詳細は一昨年度の光大会でご案内しましたが、内容をご確認され、ご承知おきくださるようお願いいたします。

令和三年度、第一回新旧合同役員会は、六月二三日（水）山口市大手町「山口県教育会館」で開催されました。役員選出及び各地区の会員の確認、会費未納者への対応、令和二年度事業報告並びに決算報告、監査報告、令和三年度の重点課題と対応、事業計画並びに予算案の検討、特に会員減少に伴う支出費の削減の検討、保険の状況説明（朝日火災（株）・防長保険センターから楽天保険に移行した旨）、令和三年度の親睦交流総会宇

部・山陽小野田（第六地区）大会についての案内、全国代議員会東京大会中止の報告、その他、三時間にとり、慎重審議されました。

引き続きまして、かなめ会役員の皆様、会の活動、継続、発展のためにご盡力ご支援よろしくお願ひいたします。

なお、令和二年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、活動自粛し一般会計決算書のとおり、支部活動援助金を支出しないで会計監査をしております。事情お察しの上、何卒ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。本年度は各支部への援助金は予算案のとおり支出する予定です。

本年度は、新会員六名で、総会員数一八三名となりました事をご報告いたします。昨年度は一九八名なので、死亡や入院治療等で一五名の減少となりました。今後とも、会員ともども手を取り合い、励ましあって、山口県公立学校退職教頭会の発展と、会員相互の親睦とをあわせて、意義ある人生をとともに歩んでいきましょう。



ナツミカンノハナ

佐賀県

佐賀県公立学校退職教頭
会 会報
「楠和」第五号より

「新型コロナの中での

退職教頭会の在り方」

会長 池田 ミヤ子

令和四年を迎え、新年のご挨拶を申し上げます。
会員の皆様には、ますますお健やかに過ごさ
れたいと思います。

「うるわしく和やかに」と迎えた令和も四年目
を迎えました。新型コロナもワクチン接種に飲み
薬の開発と希望の灯が見えたと思いきや、変異株
はデルタ・ラムダそして、オミクロンと人類に刃
を向け続けます。温暖化は進み、猛暑・自然災害
の全国津々浦々での巨大化。佐賀はリニューアル
し、さあこれからという時の再度の大水害は目を
覆うばかり、言葉を失います。心よりお見舞い申
し上げます。

厳戒態勢の中での開催二〇二〇東京オリンピッ
ク・パラリンピックは、希望と感動を脳裏に焼き
付け、多様性と共生を浮き彫りにし、その一歩を
踏み出していかねばならないと学びました。我々

楠和会に目を向けますと二年連続で全ての行事が
中止となりました。今年こそはと祈るばかりです。
先の本部・専門部の会議では、新しい意見が出て
きました。さすが、昔取った杵柄・英知の塊です。

講演中心の総会、泊を伴わない懇親旅行、定年
延長の中での新入会員の入会の工夫等々。素晴ら
しいと皆納得し、新しい勇気が出てまいりました。

役員世代交代もスムーズに行われ、年齢構成
の若返り、こんな嬉しいことはありません。感謝
申し上げます。世の中の大きな変革は、うねりの
ように激しく、ついていけないような現状ではあ
りますが、出来ることから少しずつと思えます。

また、こんな時こそ、会員同士のつながりが大
事です。この広報誌「楠和」がその架け橋をして
くれるようです。今回もたくさんの方々が寄稿
してくださっています。本当に有難いことです。

また、広報部の先生方のお骨折りで、有名な佐
賀を描く水彩画家の山田直行様より、掲載の快諾
をいただくことができました。この広報誌「楠和
五五号」の表紙を飾っていただきました。

また、山田先生のふるさと紀行が裏表紙にも掲
載されており、最後になりましたが、コロナ
禍で何もかも中止の中、明るい希望の灯をともし
てください、元気をいただきました。感謝申し上
げ厚くお礼申し上げます。会員の皆様もどうぞお
楽しみください。

「WHAT A WONDERFUL WORLD !!」

今年こそ皆様にとりましてどうぞ良いお年であり
ますようご祈念申し上げます。



九年庵（くねんあん）の紅葉 九年庵は佐賀の大実業家、伊丹弥太郎の別邸でした。
山田直行先生が描かれた「九年庵の春時の絵」から（会報「楠和」第 55 号より）

熊本県

熊本県公立学校退職教頭会

熊本県の会長は現在「選出中」です。

研究・研修部便り

須山道雄

研究・研修部では、コロナに挫けず、リモートで校正などを行いながら、「会報」、「教育徒然集」の発行に努めております。今回は、「会報七四号」をお届けいたします。

毎年三月に発行しているこの会報には、例年、各支部より送付された会報の中から、会員の方々の文章を掲載させていただいております。

今回は、少し趣向をかえ、各支部の会長様の文章を掲載することにいたしました。会長様方のありのままの文章をお読みください。

現在、教育徒然集（第七集）の原稿を募集しております。

内容は、コロナを通して学んだことや感じたことと、教育随想、ボランティア活動等です。俳句、和歌、川柳、書等でもかまいません。

形式にこだわらず、短い原稿でも結構です。積極的に原稿をお寄せください。特に個人会員の方々の原稿をお待ちしております。

よろしくお願いたします。

【原稿提出締切】令和四年十月末日

【原稿提出先】須山道雄（研究・研修部長）

事務局便り

事務局長 須山道雄

本部より、各支部会長並びに顧問、役員の方々に、全退教の課題についてのアンケートを依頼したところ、ご協力をいただき、ありがとうございます。

まとめについては、前号に掲載させていただきましたが、以前から懸案になっていた高齢化、会員減少、若手入会者がいないなどの課題が明確に顕現化されたように思われます。

会としては、多くの課題を抱えながらも持続的に活動していかなければならないと強く受けとめました。

ある県より送られてきた資料の中に、県の支部の会長様の文章がありました。内容は、やはりコロナ禍のため、支部の総会が令和二年度からできないでおり、ただ、何とか役員会だけは二回できたこととです。

感染予防のため、会員の自宅を訪問できないので、会長様は、現状報告と安否確認を兼ねて、会員全員に電話をされました。長い時間と期間を要しましたが、全員の安否が確認できて安堵したことでした。

このような県の支部の地道な活動が、県の活動

の支えとなり、延いては、本部の活動の支えにもつながると思います。感謝の気持ちがわきました。

代議員会もここ二年、中止となり、情報交流の場がなくなり、親しく相見えお互いに鼓舞しあう機会も失われました。補うとまではいきませんが、全退教のホームページに「会員の声の欄」を設けました。広く会員の皆様のご意見や感想、日頃思っていることなどをお寄せください。ハガキなどの郵便物、ファックス、メールでお送りください。

メールは、見落とすことがないように、「会員の声の欄」用の新しいメールアドレスを作成しました。

郵便物、ファックスで送る場合は、「研究・研修部便り」の住所、ファックス番号を参照してください。

【全退教のホームページを開くには】

検索窓に zenkoukyo fe2

全国公立学校退職教頭会 のどちらかを打ち込み検索して下さい。

各都県支部の発行される「会報」を毎月五部ほど 上記事務局長 須山道雄へお送り下さい。よろしくお願いたします。

編集後記

新型コロナウイルスの感染も少しずつ減少傾向にあります。まん延防止等重点措置が解除になりました。嬉しいことと思いますが、急拡大が心配なところです。

各支部の事務局長様には、会報の送付及び会長様の巻頭言をメールや郵送等でお送りいただき感謝いたします。

総会や行事等の集まりができなくなっている中で各支部や地域で発行される会報が会員相互の絆や思いやりを伝えていることを強く感じました。

会員の皆様のご健勝と更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集部 福岡



東京都台東区 上野公園交番前 公園入口周辺の早咲き桜が満開（令和4年3月20日撮影 福岡）

【題字

静岡県公立小中学校退職教頭会

前会長 長屋 梅子氏揮毫】

令和四年三月三十一日

全国公立学校退職教頭会

東京都港区愛宕一―六―七

愛宕山弁護士ビル四〇三号

発行責任者 会長 山浦 朝日